

## 平成23年度教職大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	23K05	氏名	青木 千恵
研究主題 —副主題—	第3学年の論理的に書くことにおける小単元指導の在り方		
所属校	豊島区立千早小学校	派遣先	玉川大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>OECDの国際学力調査（PISA）や全国学力・学習状況調査等、各種調査において、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題があると指摘された。知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力を育成することは、「生きる力」として重視されなければならないとしている。</p> <p>また、『国語教育研究大辞典』によれば、「論理的思考は、幼児期や児童期前期には、あまり見られず、児童期の後期（小学校高学年）の頃から顕著に発達し始めるとされる。」とある。よって、児童期中期の初めである第3学年は、論理的思考が芽生える時期ととらえ、論理的思考の土台作りとして意義があると考えた。</p> <p>そして、改訂された今回の学習指導要領の改善の具体的事項では、論理的な思考の育成が重要視されていることが示されている。指導事項を整理していくと、論理的に思考、判断したことを表現していくことが重視されることが分かった。さらに、表現を重視する言語活動の中でも、「書くこと」は、自己の思考を論理的に表現することに直結しているにとらえた。</p> <p>論理的な表現の土台作りとして重要視されるべき第3学年の「書くこと」の指導は、どのようになされているだろうか。現場の教員は、作文指導に困ってはいないのだろうか。これらの問題意識から、本研究はスタートした。</p> <p>作文指導の現状と課題から、焦点化したねらいを1単位時間で達成できるような小単元指導を位置付けることへの必要性をとらえた。そこで、第3学年の児童が論理的に書く力を身に付けることのできる小単元指導の在り方を明らかにし、小単元指導を計画することを研究の目的とした。</p>
II 研究の方法	<p>以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究の背景にある教育上の課題と、研究の構成について明らかにする。</li> <li>2 第3学年の作文指導の現状と課題をつかむ。</li> <li>3 論理的に書くための小単元指導の在り方について、学習指導要領解説の指導事項と照らし合わせながら、文献研究等を通して整理する。</li> <li>4 小単元指導を立案する。</li> <li>5 小単元指導として活用しやすい教材を開発する。</li> <li>6 作成した特設の小単元指導計画の中から、指導上の課題を踏まえ、重点とする内容を設定し、授業研究を行う。</li> <li>7 小単元指導の改善の視点を整理する。さらに、小単元指導の指導上の留意点をまとめる。</li> <li>8 研究の成果と課題をまとめる。</li> </ol>

<p><b>Ⅲ 研究の結果</b></p>	<p>第3学年の児童が文章の構成について考えること、書くことを中心をはっきりさせることは、論理的思考を高めるための重要な活動であることが明らかになった。また、このことに重点をおいた指導は、低学年まで生活作文経験から、論理的に文章を組み立てることへの思考の転換に効果的であった。</p> <p>論理的に書く力を身に付けるためには、「取材・選材」「構成」「記述」「推敲」「交流」の指導内容に着目するだけでなく、扱う文種の特性や機能、論理的に書くことを支える知識・技能に着目し、小単元指導を行うことが重要であることが明らかになった。立案した小単元指導は、全24時間である。</p> <p>そのうち、作文の作業過程に着目した小単元指導は、17時間である。</p> <p>「課題設定・取材」では、「関係付けて整理する」思考が鍵となると捉え、取材の仕方が身に付くよう、3時間の小単元指導を立案した。</p> <p>段落の機能を理解させることが論理的思考の土台と言えることから、「構成」では、文章構成のプランの立て方に関するスキル学習に重点をおき、計5時間の小単元指導を立案した。</p> <p>「記述」では、適切な言葉を選び、正しく分かりやすい文・文章にあたる知識・技能として「目的や必要に応じて原因や理由を挙げること」「事例を使って分かりやすくできること」に着目し、計4時間の小単元指導を計画した。</p> <p>「推敲」では、読み直す習慣を付けることを第一と考えた。効率よく自分の作文の間違えを直したり、分かりにくい表現を正したりすることにつながるよう、計3時間の小単元指導を立案した。</p> <p>「交流」では、低学年までの指導事項をふまえ、第3学年ではステップアップを目指す。交流の手順や仕方を、モデルとして示すこととし、計2時間の小単元指導を立案した。</p> <p>このほか、扱う文種の特性や機能の理解を促し、論理的に書くことの支える知識・技能を身に付けられるよう、計7時間の小単元指導計画を立案した。</p>
<p><b>Ⅳ 考察</b></p>	<p>小単元指導は、指導事項の重点化が図られ、効率よく論理的に書く力が培われていく。また、特設化した小単元指導は、国語科の作文指導の際に生きてはたらく効果的な指導であった。</p> <p>第3学年の児童にさらに効率よく論理的に書く力を身に付けることができるよう、中学年としての2年間を見通した小単元指導（「教材文」「指導の流れ」「手引き」）の検証・改善を図ることが今後の課題である。</p>